



園芸作物栽培に関する

これからの対策

Q & A

7月の菜園管理

6月前半は夜間の気温が低く経過し、アジサイの開花は例年よりやや遅くなった感がありました。

7月の降水量は平年並みとなっておりますが、気温経過は相変わらず高温傾向であるとしていますので適切な水やりが求められます。

近年発生が多いタニヤアブラムシの発生は6月前半では例年より少ない傾向となっておりますが、発生は始まっています。今後気温の上昇とともに発生が一気に増えてくるので注意が必要です。特にアブラムシは群棲すると葉が捲いて農薬も届きにくくなり根絶ができなくなります。



キュウリに寄生するアブラムシ

◎梅雨期の栽培管理

◎降雨対策

梅雨期の後半になります。得てして梅雨の後半は降りだすと大雨となりやすく、圃場が水浸しとなってしまいます。圃場排水に努めることは当然ですが雨滴にたたかれ、泥の跳ね上がりを受けると傷む箇所が多くなります。こうした傷から病害菌が侵入してきますので、強い雨が降った場合には雨上がりにはジマンタインやノボルト、タニールなどの殺菌剤を散布するなどの対策を講じてください。また、株元に敷きワラを充分に行うことで地温の上昇を抑えることができます。同時に泥等の跳ね返りも防げます。地道性のスイカやカボチャ、ウリなどは蔓が水たまりに浸からないように手当てすることは大変有効な対策となります。

なお、降雨で野菜の葉などが濡れている状態のときに収穫や整枝など作物体を傷つけるような行為は行わないでください。

「メウリ摘み」を行い草勢を落ち着かせましょう。ナス、ピーマン、シシトウ類は株への日当たりを良くするため、とりあえず内向きに伸びた枝は順次折取り杯型の姿になるよう心がけましょう。

◎雑草の処理

梅雨時期の雑草の伸びは非常に速くなります。畑が広いと手取りはできなくなるのでラウンドアップなど根まで枯らす剤を選択しましょう。野菜の畝間や株間は作物によってプリグロックスやバスタ液剤を使用しますが登録内容を必ず確認してから使ってください。なお、スキナにはバスタ液剤(1000倍で使用)が良く効きます。しかし散布後1ヶ月もすれば再生してきますが勢いは弱まっています。散布しただけの効果はありません。



除草剤散布、枯死後再生のスキナ



キュウリのべと病。湿度が高いと出やすい。

◎秋野菜の準備

まだ梅雨も明けていないというのに、秋野菜の準備は始まります。7月20日ごろからキャベツ、ブロッコリー、カリフラワーの播種が始まります。暑い時期なので発芽してからは午前の光は当てますが、11時頃から3時頃までの日中の強日光は当てないようにしましょう。セルトレイでの育苗は乾燥が激しい時期ですので不向きです。ポリポットか72穴のペーパーポット育苗が管理しやすいです。

また、水やりは8時までには行うてください。水は水道水か雨水を使用しましょう。丹南地域の地下水は金気が強いので、苗の生育に影響が出やすいので使わないでください。



金気をつよい水を使うと土の表面に肌色の固形物が析出します。



金気の成分が蓄積し、まず双葉、次いで本葉が黄化してきます。

◎水やり

高温期を向かえ、水やりは欠かせなくなってきました。家庭菜園で最も難しい技術は水やりであるといっても過言ではありません。野菜はしゃべることができないので、栽培者が水が足りているかどうか判断しなければなりません。漫然とした水やりを繰り返している野菜は思うような生育をしてくれません。葉水の出方、日中の葉の様子、新芽の伸び具合、花のつき方と花の色・大きさ・形状など観察ポイントはいくつかあります。水をやりながら野菜の姿を毎日観察する習慣をつけることが野菜名人の第一歩です。

豆知識 水やりは夕方?

よく水やりは夕方にするという方がいますが、日によっては夕方に行う場合もあります。乾燥が激しい場合には夕方でもやる場合があります。毎日陽が落ちてから水やりすると夜中じゅう湿度が高まり病気に侵されやすくなります。

しましますが、作物は疲れてその後成り止んでしまいます。変形果や実が込んでいるところは適宜、摘果して負担を軽くしてやりましょう。

◎整枝

梅雨期は夏野菜の生育が最も盛んな時期で、ツルものなどはぐんぐん伸びてきます。肥料が効いている圃場や整枝もあまりされていない野菜は過繁茂となり病害虫が発生しやすくなります。この段階できれいに整枝することは不可能です。とりあえず晴天日に脇芽のツル先だけを順次摘み取る



追肥を株元に、しかも多すぎて株が枯れてしまった。

◆こんな問い合わせも

トマトの水をやるタイミング??

トマトは水をやらなくてはなりません。これは間違いないです。美味いトマトにするためにはあまりやたらタメと云う言い回しの一部分を捉えていただけです。野菜によっては水の必要量はそれぞれ違っていますので、乾燥気味に管理した方がよい物もありますが水をやらなくという野菜はありません。

ただ、丹南地域は元々湿潤な圃場が多く、特に転換畑では地下からの浸透水が常にあるため、植え付け時以外に1回も水をやらなくても十分育つ場合もあります。圃場は場所、場所によって環境が違いますので、そのことを踏まえずに単に管理方法だけを聞いてきてもそれが自分の圃場に合った方法かどうかは分かりません。人の話は参考として聞くようにしましょう。



◎イモ類の管理

サトイモは乾燥に弱いので、水はしっかりとやりましょう。サトイモとナスは通路が白く乾いているようでは良い物ではありません。露地栽培の場合、1月中に追肥と除草を兼ねて土寄せを行います。特にサトイモは植え付けが浅いと子ズイキが多く発生してきますのでしっかりと土を寄せてください。発生した子ズイキは早めに刈り取ります。

サツマイモは乾燥に強いので、日照りが続いて葉が燃れ出さない限り水はやらなくても大丈夫です。

肥料を多くやるとしまい、過繁茂状態となってしまう場合は、ツルの勢いを弱めるため畧を裏返しにする場合もあります。なお、近年コガネムシの幼虫によるイモの食害が多発しております。7月下旬に入るとコガネムシが産卵に飛来してくるので、この時期にスミチオン乳剤かエルサン乳剤などを散布しておきます。



コガネムシ幼虫の食害

高橋 優
園芸アドバイザー

お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農生活課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499

バックナンバーはJAたんなんホームページ
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。